

1 教育目標

人間性豊かな東港中学校生徒の育成

- 明るく、たくましい心身を育てる。
- 自ら進んで学習する態度を養う。
- 情操を豊かにし、礼儀正しい生活習慣を育てる。
- 協力して奉仕する態度を養う。

2 本年度学校教育の努力点とその推進計画

(1) 努力点

『じりつ』（自律・自立）できる生徒の育成
～深い学びを目指した授業づくりと ICT 活用を通して～

(2) 努力点設定の理由

義務教育が終わる中学生を将来、独り立ち（自立）できるように指導していくことは、中学校の教職員の義務である。また、自立して社会で生きていくためにも、自分自身で立てた規範に従い行動すること（自律）が、大切である。

本校の生徒は、挨拶がよくでき、友人に対して思いやりをもった行動が多く見られる。また、言われたことをきちんと取り組もうとする意欲も感じられる。しかし、生徒の中には、与えられた課題に対して、なぜそうなるかなどの理由を考えることや、自分なりの意見をもつことが苦手意識をもっている現状がある。また、基礎的・基本的な学力の定着が不十分な状況もある。

そのため、『じりつ』できる生徒を育成するためにも、「自分で考え判断する力を養う」として、「基礎基本を身に付けること」が必要であると考えた。

そこで、自分で考え判断する力を養うために、めあてや振り返り、自分で考える時間を設定するなどして、深い学びを目指した授業づくりをする。また、基礎・基本を身に付けるために、タブレットのドリルアプリを使用するなど、ICT を活用していく。これらを通して、テーマに迫っていきたい。

(3) 昨年度の成果と課題

- 深い学びを目指した授業づくりを意識した実践を行うことができた。
- 基礎基本が未だ身についていない。

(4) 本年度の取り組み

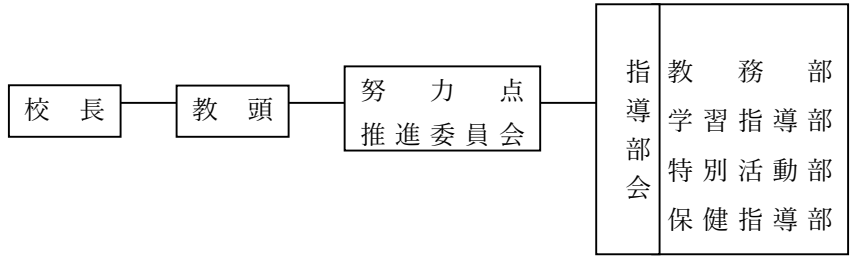
ア 深い学びを目指した授業づくり

- 授業の初めにめあてを伝え、授業の終わりには振り返りを行う。
- 生徒が様々な考えられるような課題を設定し、1 単位時間の中で、生徒が自ら考える時間を設ける。
- ◎ ICT を効果的に活用し、分かりやすい授業を行う。

イ ICT 活用による基礎基本の定着

- タブレットのドリルアプリを積極的に活用する。
- ドリルアプリで練習の成果を、基礎学力コンクールで実感させる。

(5) 努力点推進組織



(6) 具体的な取り組み

- 各教科で1人の実践者を決めて、実践を行う。(音・美は2教科で1人)
- 実践者は、めあて・思考の場面・振り返り活動が分かるような実践計画を立て、実践をする。
- できるだけ、実践の授業はお互いに参観する。(同教科は特に)

(7) 努力点推進の年間計画

月	深い学びを目指した授業づくり	ICT活用による基礎・基本の定着
4	【努力点推進委員会】 努力点の決定、教育課程、指導方法の検討	
	<教科部会> ○ 内容の検討 ○ 実践者の決定	<学年会> ○ コンクールの日程決め ○ ドリル練習計画
5		○ ドリル練習開始
6	○ 授業実践	○ 基礎学力コンクール1回目
7	1学期の反省と2学期に向けた取り組みの検討	
9	○ 研究発表	
10	○ 授業実践	○ 基礎学力コンクール2回目
	【中間報告会】	
11	○ 授業実践	
12	2学期の反省と3学期に向けた取り組みの検討	
1		○ 基礎学力コンクール3回目
2		
3	【最終報告会】	